東京女子高等師範學校附屬幼稚園の移轉に付

氏原鋹

東京女子高等師範學校附屬幼稚園は、我國の創立にして明治九年十一月今より五十七年前開園爾來此永き年月を我全國幼稚園の模範となり指導者となり多數の保育者を養成し幾多の幼兒を保育して我國幼稚園の今日ある基礎を立てられ、歴代の職員諸氏は常に斯道の研究に努力せられ今日の發展の折柄遠からず（來一月頃）大塚に新築の廣くうつくしき園舍に移轉せらるる事となり益々輝やきを添へる事を慶賀す。

現在お茶の水の地は我國幼稚園の創業の地加之我全國幼稚園の模範として約六十年間多大の役目を完ふせられ且畏くも數度の行啓を仰ぎし等の思ひ出深き場所なり。此比類なき事蹟を何とかして此處に永久に紀念すべき印象を殘すの方法のなきものならんかと懐舊の念は此園の關係者殊に出身者の同感なるを信ず。併し之れは思ふべく行はれざるものと最も殘念に唯涙を呑み痛嘆して諦むる外なき衷情をお察しいただきたし。お茶の水幼稚園に關する記事も之れが終筆として簡單ながら記るして、此思ひ出多き場所に惜しき別れを告げんとす。

○第一、行啓の事

明治時代より昭和時代に於て、最初は英照皇太后　照憲皇太后の兩陛下お揃ひの行啓あり、此時幼兒の遊嬉、風車水車を御覽に入れたり。

次に今上皇太皇后陛下の行啓あり。陛下は御幼時九條家姫君にて此園に在らせられたので當時の御思ひ出の事柄に付種々御下問遊ばされ御懐舊の情深く在らせられたり。茲に陛下御在園の當時保育申上げし澤田保姆に對し畏くも此舊師に厚き御思召を賜はりし次第を謹記す。先づ澤田保姆の經歴より述べます。

澤田氏は舊姓須田喜代子東京女子高等師範の出身卒業直後お茶の水園に在り後京都府第一高女に勤務、後神戸市須磨區西代通二丁目二六澤田甚兵衛氏に嫁し、神戸市北部幼稚園長として勤められし事あり、實に氏は複雜なる家庭に在りてよく範をたれ、近隣を化したる立派な婦人でした。身高等教育を受けて居ながらむしろを織り畠を耕し義子を育て親類仲よくする等こても筆紙に盡しがたき苦勞でした。天は尙此婦を惠まず、主人に死別し我子こてはなし心淋しき折柄盲目になられました。それでも失望せず心眼が開けたこて盲目で手紙をかき裁縫をなしまこに〳〵涙がこぼれました。此事情を神戸幼稚園長望月國子氏が當時の兵庫知事有吉忠一氏にお話しになりました處、澤田氏が卒業直後お茶の水幼稚園に從事して、皇太后陛下が御入園の時御手を取つてお導き申上た事を思召され、陛下神戸へ行啓の時須磨の離宮で知事を召され、幼少の時の事こて、十分な記憶はないが盲目になつたこはあはれな事であるこ稱せられ、御菓子料こして金二拾圓を御下賜になりました。子息甚兵衛氏は大に感激し家門のほまれこ、澤山のお饅頭を作らせ親類知己に配りました(之れは大正十一年五月六日の事でした)今迄盲目の取るに足らぬ老婆の一躍して光榮ある、天恩の許に感涙にむせばれました。全く有りがたい事で御座いました、後間もなく赤痢で死亡されました。以上は、澤田喜代子氏の皇太后陛下より有りがたき思召を拜されました次第で御座います(以上は望月氏より承りしお話)。

近き行啓こして、今上皇后陛下の親しく保育の狀況を御覽遊ばされて最も御興味深く拜され御豫定の時間を超過遊ばされたり。

○第二、御茶の水幼稚園が我保育界の爲めに盡されし事ごも

(イ)唱歌

今日幼稚園小學校中學校女學校で唱歌を正科こして用ひられ其材料も豐富で之れを施すに何等不自由なき時代こなりたるも、昔時は此唱歌を得るには極めて苦心なりし次第を述べます。其當時の保姆豐田英雄近藤濱の兩先生が自ら唱歌を用

作歌して之れを宮內省雅樂部の伶人先生に作曲を願ひて使用すると言ふ自ら作らされた唱歌のなき時代なりし。斯くしてひられたりしは此御茶の水幼稚園が我國の嚆矢なり。之れが基礎となりて、附屬小學校本校等に用ひられ後全國に及ぼすに至れり。明治十四年頃官立音樂學校が設立なり、唱歌集の出版あるに至りて此獨特の舊唱歌は用ひぬ樣になりしも兎も角此唱歌が今日唱歌の基礎をなしたものなり。前記作曲を願ひし宮內省雅樂部の伶人(官名)も多くあるも其中の主もなる作曲者の名を擧ぐれば 東儀季芳、芝葛鎭、林廣守(國歌君が代の作曲者)の諸氏にして尙多、豐、上、奧、山ノ井、諸氏あり。以上雅樂部に屬する諸氏は當時牛込なる、雅樂部附屬の音樂講習所に於て、西洋式歐洲樂の練習を外國人に就てなされし之れが現今上野の音樂學校の前身なり。

(ロ)遊戲

遊戲も唱歌同樣に此園に於て始めて作り用ひられしもので、唱歌と同じく其意味を獨逸のものより取りてなされたり。之れは唱歌の如き創作上苦心は餘りなかりしも、相當に考慮を拂はれたり。其最初は、風車、水車、門、環、蓮の花、家鳩、兎、民草等なりし、之れが今日の遊戲の基となりしものなり。

(ハ)豆細工の改良

昔は大豆に木箸を以て作りしもの、之れを豌豆とヒゴ(細き竹)に改めて其大豆の細長く面の扁平なるに代るに豌豆の圓き面木箸の豆にさしにくきを細竹のさし易きものに代へて此製作上幼き者にも容易に爲し得らるる樣に改良考案者は近藤濱先生なり。依て此近藤先生の恩惠を思はれたし。

(ニ)保姆の養成

明治十一年より保姆の養成を始められ同十三年に至り本校生徒の保育練習の爲めに之れを廢されたるも、同二十九年に至り本校生徒以外にも保姆養成を爲す事となり、保姆實習科と改名して引き續き養成して、多數の保育者を出し全國幼稚

園の爲めにす。此卒業生を以て第一番に開園せしは大阪府で次は鹿兒島縣なり。

（ホ）幼稚園に關する參考圖書

二十遊嬉　幼稚園記、幼稚園、思物圖形、幼稚園創立法、動物圖解、保育法筆記、唱歌書。

（ヘ）フレーベル會

保育が向上進歩を計る爲めに園内にフレーベル會を起こし最初は、市内保育者の會合なりしも漸く全國に及び毎度保育講習會を開催して保育者の爲めにし、又會誌を發行す。後婦人と子どもと改題す。之れ現在日本幼稚園協會の幼兒教育の前身にして、誌面の結構は益〻斯界の爲めに多大の利益を附與せられつつあり。

以上は此園の五十七年間の長き年月に於て我全國の保育界に貢獻せられし主なるものなり。尚此他にも記るす事あるも此處に略す。

終に此園最初の構造の他に多く見ざるものなりし事を記るす、本園の建物は長方形で床高き事は普通のものでなかりし之れは其建物の地下全體を大人の立つに尚餘裕あるもの之れは其地下の中央に、大煖房の裝置あり、此處より全園内に熱度を送りて溫を取り、幼兒に危險なき溫度の取り方なりし。此構造は他に見ざるものなりしも此折角の準備も其構造に缺點ありて、溫熱のよく通し兼ね廢物となり居たり。此大きく廣き地下を利用せし面白き話あり。當時交通機關は電車なく比較的遠方通園の幼兒は自用人力車によるので、此の車夫等の供待所の設備なき園の車夫等は事務所に向つて何れの諸官省にも供待控所あるに此處になきを大に不平申出たれば、仕方なしに此地下を利用して供待所とされたり。車夫等はこんな處に入るのは恰もモグラモチだと小言を言ひつゝ此地下に入りたり。それで事務員も車夫等も共に大笑ひをなしたり。

此地階に木炭の置場あり、其廣き本校の炭も入れてあり或時本校の使丁が炭を出しに入りて長時間出て來らざりしを幼稚園の使丁が案じて見に行きました處、本校使丁がそろ〳〵と炭を持つて出て來たので、幼稚園の使丁が君ごうした病氣

でも起つたと思つて見に來たと言ひました處、本校使丁は、それは濟まなかつた、實は炭の中で餘り凉いので暫く畫寢して忠臣藏の師直のまねをして居たと申しましたので大笑しました。（右は創立當時の建物の床高かりし事に付ての笑話なり）

○

室田その子

お茶の水それはなんと懷しい名でしよう。お茶の水と云ふと誰でもすぐ小學校を連想いたします。其由緒ある土地をはなれて來春から女子高等師範學校と共に大塚へ移轉する事になり誠に名殘惜しい感にうたれます。私はお茶の水に近い松住町に生れ、今より凡そ五十二三年前の幼稚園兒でございます。今では頭は白髮を交え顏は皺だらけの婆々でございますが、其當時はまあ可愛らしい兒であつたろうと思ひます。（是は一人ぎめですけれども）唯今は又毎日孫の送りむかひに參つて居ります關係上、一としほなつかしいと思ひます。幼い兒達が無邪氣に遊んで居らるゝのを見て居りますと、面白く心もはれやかに自分ながら氣がわかくなりし樣に思われます。併し先生がたの御面倒のよろしきには幾重にも難有、とても眞似は出來ないと思つて居ります。扨移轉につき舊き思出を何なりと書けよと御依賴を受けましたが、元來筆不勝殊に記憶の至つてよくない者が五十年も以前の事、何一つ覺えて居らず、達て御辭退申しました處一つでもよいから書けとの仰せに據なくお受けは致しましたけれども、是れといふ確なる事も覺えず、其當時のお友達に二三問合せましたが皆何分あまりふるいのでおぼえて居ないとの御返事にがつかりいたしましたが、幾分おぼえて居ります事をお話し致しませう。

先づ場所は今の處で、建物は木造にて椽高く一階建にて、出入には廊下より四五段おりてお庭へ出し樣に覺えて居ります。前は廣い芝生にて、お山もあり、左手に大きな藤棚があつて、お池もあつたやうでした。芝生の先きの方に塀があり女子師範の寄宿が建つて居りました。御門は順天堂病院の横手に向つてあつたと思ひます。組は今の樣に海山等の名は

なく、たゞ一の組二の組三の組と申し、新入の者は三の組へはいるので、年齢は滿三歳より小學校入學迄と覺えて居ります。私は明治十二三年頃より十五年迄居りました。其當時お友達として九條樣三條樣の御姫樣もいらせられました。よく黄八丈のおめし物に紫のお袴を召し、おかつぱにして稚兒髷に結つて居られたのを兒心に覺えて居ります。先生がたも幾人かいらせられしも其内に加藤先生を一番よく覺えて居ります。お友達の話に、鳩山先生や西洋人の先生もいらせられしと伺ひましたが、私ははつきり覺えません。又在園中、照憲皇太后陛下が臨御あらせられました。確か私が六歳の時と思ひます。

お細工は折紙粘土豆細工等いたし、よく色紙と麥藁を絲で通したのを首にかけて家に歸りしを覺えて居ります。唱歌も遊戯もございましたが、樂器は何んであつたか覺えません。たゞ遊戯の内、皆さんで手をつなぎ輪になつていたします(民草の盛ゆる時と苗代の)といふのと(家鳩の)と(猫と鼠)等はよくいたしましたから覺えております。女の子は又毬や羽子をついて遊び、男子は木の荷車があつてそれに乘つたり物をのせたりしてあそんで居たのを記憶して居ります。

以上おぼろげながら、私のおぼえて居りました事をお話し申上げましたが、何分ふるい事にて思ひちがひ等もございますかも知れませんが其邊はごうぞおゆるし下さい。

――いとも舊き　幼稚園兒の一人――